フランス大好きな人のための小さな情報誌

TAKE FREE

Salut La France

今だから伝えたいフランス［サリュ・ラ・フランス］

Janvier 2014

特集 芸術の都 パリ

vol.36

Une brochure sur la France

Photo Yolliko Saito

サリュ・ラ・フランスの読者の皆様へ

２００６年１０月に創刊しましたサリュ・ラ・フランスは昨年春発行の３５号以来少しお休みをいただいておりました。インターネットを開けばパリの情報がすぐに手に入る今、紙媒体の本誌を発行し続ける事の意味をゆっくり考えたいという思いと、仙台が故郷の私は震災後走り続けてちょっぴり疲れていました。こっそりお休みをいただいていたつもりだったのですが、読者の方、関係者の方、多くの方からお問い合わせや早く最新号！というメッセージをいただきました。「情報に溢れている今だからこそ、本当に伝えたいフランスをお伝えしよう。」

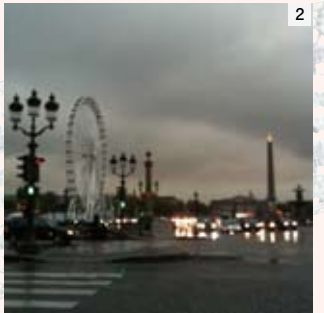
２０１４年1月サリュ・ラ・フランスは再スタートいたします。今だから伝えたいフランスをもっと多くの方に届けたい思いを込めて。

さあ、一緒にフランスでドキドキしましょう！

皆様、これからもサリュ・ラ・フランスをよろしくお願いいたします。

仏蘭西倶楽部　主宰
サリュ・ラ・フランス　編集人
シャンソン歌手　　貝山　幸子

1


2

3

4

5

6

7

8

1　ピギャール駅前のムーランルージュ
2　冬の朝のコンコルド広場
3　芯まで暖まるスープドゥオニオン
4　16区のお屋敷街のお散歩風景
5　冬のテラスはさすがに寒そう
6　今の季節食べたくなるラクレット
7　ドカーンとムール＆フリット
8　２０１３年の年末のシャンゼリゼ
9　ピラミッド駅前カフェは待ち合わせの定番です
10　モンマルトルは冬でも暖かい？
11　通学風景。黒いダウンもなんだかお洒落。

9

10

11

仏蘭西倶楽部 インタビュー in 福島県立美術館

vol.36

原田マハさん（作家）
Maha HARADA

インタビュー／文　貝山幸子

画家ルソーを描いた「楽園のカンヴァス」で山本周五郎賞、2013年本屋大賞第三位など各賞を総なめにし「ジヴェルニーの食卓」ではモネ、「ユニコーン　ジョルジュ・サンドの遺言」ではタピスリー・貴婦人と一角獣をテーマに史実から生き生きとした斬新なストーリーを生みだす原田マハさん。
福島県立美術館での講演の直後のインタビュー。美術作品に対する愛情が溢れて、美術館に行きたくなる！そんな気持ちになる原田さんの著書。フランス好きにはたまらないエッセンスがちりばめられています。

執筆や取材でパリに滞在する事も多いと思います。パリで好きな場所はどこですか？
やはり、美術館が好きですね。一番好きなのは朝一番に見に行く、オランジェリー美術館のモネの絵。朝の光がジヴェルニーのモネの庭を思わせるし、天井から自然光が入ってくるのとてもきれいです。夜のルーヴル美術館。夜間開館している時に行って、人があまりみない物をじっくり見ます。展示ケースもライトアップされていて宝石みたいにきれいですよ。ルーヴルを独り占めした気持ちになります。
パリではないですが、スイスのバーゼルの美術館。是非足を伸ばしてほしいですね。

「楽園のカンヴァス」では画家ルソーを始めピカソも映画のように生き生きと描かれていますが作品作りはどのようなことから始まりますか？
楽園のカンヴァスは史実３割、ノンフィクションとフィクションをつなげてます。ルソーはモンパルナスを転々としていたんです。ルソーが住んでいた住所が全て正確に出ている資料があって、それを元に街中を回りました。ルソーが最後に住んだ場所はそのまま残っていて、１階がカフェでそこで赤ワインとパンでルソーに乾杯をしました。とにかく歩いてモンパルナスの地図を頭に叩き込んで、そこからルソーが小説の中で動き出しました。二十歳頃からルソーを通してエコールドパリ、モンパルナスに憧れていたので、ずっとパリの妄想をしていたのかもしれないですね。

どういうときに、頭がオフになりますか？
長野県に引っ越しまして、乗り物に乗る時間が増えました。何も考えず、ぼーっとして目に入る景色が引き金になり、さりげなく妄想が始まりますね。

フランスで好きな食べ物は何ですか？
バゲットとチーズとペリエ。３ヶ月滞在の時にほとんどバゲットとチーズしか食べなかったんです。ルーブルの近くに住んでいた時も行きつけのパン屋があったし、その後に住んだ北マレのパン屋さんも美味しかった。

読者の皆さんへメッセージを
私もずっと憧れてたパリ。そのパリへの思いから次回作を執筆中です。パリを舞台にした爆笑ラブコメディを予定してます。是非楽しいパリを一緒に味わってください。癒されて楽しんでいただけると思います。

プロフィール
1962年東京都生まれ。関西学院大学文学部日本文学科および早稲田大学第二文学部美術史科卒業。マリムラ美術館、伊藤忠商事、森ビル森美術館設立準備室にそれぞれ勤める。森ビル在籍時、ニューヨーク近代美術館に派遣され同館にて勤務。その後独立し、フリーのキュレーター、カルチャーライターへ転身。
2005年「カフーを待ちわびて」で第１回日本ラブストーリー大賞を受賞し作家デビュー。2012年、画家アンリ・ルソーの代表作「夢」を巡るアートミステリー『楽園のカンヴァス』で第25回山本周五郎賞を受賞。
恋愛、青春、家族、アート、農業、政治など幅広いテーマに挑み、コミカルからシリアスまで様々な味わいの作品を次々に発表している。

1

2

3

1「楽園のカンヴァス　La toile du paradis」　新潮社　1,680円
2「ジヴェルニーの食卓 Une table de Giverny」集英社　1,470円
3「ユニコーン　ジョルジュ・サンドの遺言」　NHK出版　1,365円

原田マハさんおすすめのお店

アンバサードブルゴーニュ
ここで、美味しい赤ワインを１杯飲むのが大好き！

＊AMBASSADE DE BOURGOGNE
6, rue de l'Odéon, 75006 Paris.
E-Mail　adbjpn@gmail.com（日本語可）
ambassadedebourgogne.com/index.php/jp/

オデオンの側にある日本人の奥様とフランス人の御主人の素敵なワインショップ＆ワインバー。日本語でワインの説明が聞けるのもGOOD.

福島県立美術館のインフォメーションは最後のページをご覧ください。

Quimper

カンペール陶器と優しいフランス

vol.01

北海道クレイル
×
フルリーロゼ

カレ（180g）1,155 円

おいこみブルー（170g）
1,155円

ロワレ（160g）1,155 円

＊４月の増税時に、３種類とも 1,200 円（税込）に変更になります。

information

2月5日（水）／2月6日（木）
「クレイルチーズフォンデュの会」
●場所　カーヴミツクラ　愛知県名古屋市中区栄 1-13-7
●ご予約／お問い合わせ　since1975@clair-cheese.com

2月15日（土）～2月24日（月）　**北海道展出店（名古屋市／三越栄店）**

新鮮な北海道の素材を使用して一つ一つ丁寧に仕上げる
手造りのカマンベールをお届けします

株式会社クレイル
〒045-0032 北海道岩内郡共和町老古美 320-3
TEL 0135-62-7457（受付 10:00 ～ 17:00）FAX 0135-62-8585
Since1975@clair-cheese.com　http://shop.clair-cheese.com/（通信販売あり）

愛に溢れたカマンベールチーズ

北海道物産展の中で光る物が並んだショーケースに目が止まった。
お行儀よく並んだ真っ白い四角い箱がライトに反射していた。
「個人ではうちが初めて日本でカマンベールチーズを作ったんです。」
素敵な青年が真っすぐなキラキラした瞳で話し始めた。
「うちの父が子供の頃にパリのマルシェで食べたチーズの味に魅せられて、フランスで発酵学を学んだんです。僕は PR 担当です。」
おじいさまは、戦後パリに滞在して活動していた高名な洋画家西村計雄氏。親子三代、パリから始まって今このチーズがここに存在するなんて素敵。
北海道共和町老古美（おいこみ）で作られる無添加の乳酸菌が生きているのを感じるチーズ。「冷蔵庫の野菜室にいれてください。徐々に熟成が始まります。」ホント、日にちの経過によってチーズの味がどんどん変化していく。デリケートな中に力強い生命力を感じる。原料は酪農で名高い黒松内町の良質な牛乳。
「父のチーズは全て白カビタイプのチーズなんです。」
クレイルさんのチーズはブルーが入っているタイプ、丸いカマンベール、美食家の作家、開高健氏が絶賛した四角いカマンベール、「カレ」。真っ白な四角いカマンベールは気高く美しい潔い。
チーズが生きている事を感じながら楽しめる北海道発のビジュー（宝石）達です！

フルリーロゼプレート 25cm 10,080 円（税込）
フルリーロゼサラダボウル 22cm 9,870 円（税込）

300 年の伝統を誇るカンペール陶器

フランス西部、ブルターニュ地方のカンペールは、ケルト文化を今に遺す独特な文化で知られ、300 年以上にわたって一つの文化を形づくり、ささえてきました。伝統的な手法で今に続くカンペール陶器は、ブルターニュの草花や民族衣装をまとった男女などすべて手描きです。

SHOP　PLACE　OPERA プラスオペラ
東京都新宿区西新宿 3-20-2
東京オペラシティ１階
TEL 03-5353-0567
営業時間　11：00 ～ 19：00

LE SALON DE MUSEE
ミュージアムショップ ルサロン・ドゥ・ミュゼ
神奈川県横浜市中区日本大通り 11
横浜情報文化センター２階ニュースパーク
TEL045-640-1151
営業時間　10：00 ～ 17：30

夢のあとさき Vol.1

パリに住むという夢。その夢をかなえた人は
その後どうしてるのかな。夢をかなえたその後は…

横山絵美さん　*Emi YOKOYAMA*
ジュエリーデザイナー
㈲モンベルテ代表取締役
㈶日本ジュエリーデザイナー協会会員

1992年～1993年 2年 パリ 11区シャローンヌに住む

武蔵野美術大学造形学科卒業後、広告代理店で大手企業の広告セールスプロモーションを手がける。その後パリへ。語学学校に通う傍ら、パリはもちろんの事ヨーロッパ各地の美術館、展示会、ギャラリーなどをまわりヨーロッパの文化を学ぶ。「がんばって働いた自分へのご褒美の意味を込めて、しっかり学びしっかり遊びパリでしっかり2年生活しました。」次のステップに行くに自分で決めた時間。「予定通りの時期に帰国。まっ、お金も予定通り使いましたからね。なくなりました。」住んでいたのは、アーティストも多く住む11区シャローンヌ。今はかなり素敵になってきてるけどその当時は下町の風情もかなり残っていたそう。「帰国後、パリから東京、東京から故郷仙台へ帰る事になりいろいろなギャップが辛かったですね。それを解消するにはフランスに触れてなきゃって思って、フランス語学校へ通い始めました。」ジュエリーを本格的に学ぶ為に、東京でジュエリーのアトリエでスタージュ（下働き）をしながら学校に通い専門的な技術を学ぶ。天然石やシルバー、金をつかったヨーロッパ調のアクセサリーは優雅でやさしい。ミモザやミュゲ（鈴蘭）など、フランスを思わせる花のシリーズも大人気。

「つけて美しくなるように、元気になるように、そして幸せになるようになジュエリーがモットーです。」アクセサリーを気軽に作れるワークショップもフランスイベントやカルチャーサロンにて開催。

「2年間、街に出てパリに触れました。それが全て私の基本にありますね。今のパリを知る為に1年に1度はパリの空気を吸いにいくように心がけてます。」

モンマルトルの芸術家 Montmartre その1

オーギュスト・ルノワール『ムーラン・ド・ラ・ギャレット』

モンマルトル。世界中でもここほど多くの芸術家にかかわりのある場所もないでしょう。ルノワール（1841－1919年）は傑作『ムーラン・ド・ラ・ギャレット』をこの地で描きました。彼らしい、みずみずしい桃のような頬をした少女たちのいる光景です。この画家が描く人物はみんなふくよかで温かな幸福感にあふれているのですが、実際の本人は、それとは裏腹に神経質でがりがりに痩せた人でした。陽気な性格ではあったそうですが、晩年は重いリウマチを患うようになり、手に筆を縛り付けて描いたといわれています。作品とのギャップに驚きますね。描いている時の心の中は、温かなみずみずしいものでいっぱいだったに違いありません。そう思うと、同じ絵もこれまでと違ったように見えてきます。

アンリ・ド・トゥールーズ=ロートレック『ムーラン・ルージュ、ラ・グーリュ』

ロートレック（1864－1901年）もモンマルトルと切り離せない画家です。子供の時の事故が元で下半身の成長が止まってしまい、奇妙な容姿をしていました。映画などではそのため不幸な芸術家として描写されますが、じつはこの人、お祭り騒ぎや悪趣味な遊びが大好きで、仮装して自分の異様さを強調するくらいの目立ちたがり屋。いわば「陽気な変人」だったのです。ムーラン・ルージュのポスターを描いたことで有名ですが、彼が絵の中に追求したものは、正統な美ではありません。醜さもリアルにとらえていて、デフォルメまでもが真に迫ってきます。物事の表面だけにとらわれず深層を見て、稀なもの、貴重なものを探す楽しみを知っていたのですね。その彼が、死ぬ前に一度は行ってみたいと思っていたのが日本だったのですが、悲願叶わずでした。なんだか親近感を感じませんか？

文・大串久美子
執筆家・翻訳家。フランスの文芸や歴史を研究。
著書に『華麗なるフランス競馬』（駿河台出版社）

新連載

シャンソンで ドキドキしませんか？

Sachiko KAIYAMA

vol.1 エディット・ピアフ的恋愛

ピアフの生まれたベルビル

創刊から 35 回続いた“シャンソン至上主義”。いろいろな角度からシャンソンをご紹介しましたが、ちょっぴりリニューアル。シャンソンには恋の歌がたくさんあります。恋が足りない人、恋愛に悩んでいる人、楽しい恋愛でキラキラしてる人！さあ、“シャンソンでもっとドキドキしませんか？”

第一回目はシャンソンの女王エディット・ピアフ。波乱の人生を送ったピアフ。最愛の恋人を飛行機事故でなくして悲しみを乗り越えて歌ったのが名曲「愛の讃歌」なのは有名な話。それより随分前にピアフが作った歌に「バラ色の人生～ La vie en rose」があります。駆け出しのイケメン歌手だったイヴ・モンタンとラブラブ時代に出来た「貴方が大好き。幸せよー。」って歌。それから、ピアフの恋愛観をそのまま歌にしたような「愛の言葉～ Les mots d’amour」

「いろんな愛の言葉を、貴方は私に囁いたわ。でも、そんな貴方はもう他の人に愛の言葉囁いてる。実は私もそうなの。貴方だけなんて言ったけど、もう他の人に同じように囁いてる、愛の言葉ってそんなもんよねー。」ピアフにとって愛は移り変わるもの。気に入ったら手に入れる！２股３股は当たり前。だって私が好きな男が私を好きなんだもの。本当のピアフはどんな女だったんだろうか。失恋を恐れたのではなく、独りぼっちになるのが怖かったのかな。ピアフにとって歌だけがリアリティ、恋をする事は絵空事。終わらない恋は無い。ピアフにとってステージの上だけが真実の世界だったのかな。恋のエピソードには事欠かないピアフ。肉食系女子の上級者ってとこだったのでしょうか。

エディットピアフカフェ

貝山幸子 シャンソン歌手／サリュ・ラ・フランス編集人／仏蘭西倶楽部主宰

仙台市出身。７年間パリでたくましく生活をしながら音楽探訪の日々を送ったのち、日本での活動再開。超次元音楽館やカフェコンセールシリーズをプロデュースし、日仏で独自の世界を発信する。フランス＆シャンソンに関するエッセー、講演、プロデュース等でも活動。2003 年にアルバム“月を噛む”発表（NES18964 2700 円）。その後、故郷仙台の“青葉城恋唄”をフランス語と日本語でリリース。フランス語の“東京ブギ”“蘇州夜曲”は、日仏で高い評価を受けている。“愛の言葉～エディット・ピアフを歌う”（cos2266）最新アルバム“バルバラを歌う”（LLCM-1004）好評発売中。http://salut-paris.com/

Information

Salur la France à 広島

salut la Franceが広島にお邪魔します！

１日だけの特別イベント
ミニフランスフェア＋カルチャーイベント

［日時］2014年２月26日（水） ミニフランスフェア開催 AM10:00～PM7:00

［会場］ボーレザンサロン 広島市中区大手町2-5-18

カルチャーイベントの詳細は仏蘭西倶楽部HPを御覧ください http://salutlafrance.jp/
イベントに関するお問い合わせ TEL070-6953-2266（仏蘭西倶楽部）

ボーレザンサロン×アンスティチュ・フランセ九州特別イベント
＊３月 7日 **フランス本場のチーズの楽しみ方** 講師 オリヴィエ・ベルブノワ
＊３月 22日 **バラ色の人生を歌おう** 講師 ジャン＝シャルル・シェンケーン

福島県立美術館は福島県、県都福島市に1984年開館致しました。
その友の会は「美術の楽しみは人生の楽しみです」をモットーに2003年に発足致しました。
昨年は友の会創立10周年にあたり、美術をテーマとした作品で注目されている女流作家　原田マハさんを迎えて記念講演会を開催いたしました。今まで、研修旅行や美術鑑賞講座、実技講座、また映画鑑賞会、ミュージアムコンサートなど多彩な活動をしてまいりました。その活動を通し、美術館に親しみ、作品をより深く鑑賞し、また会員どうしの触れ合いも新しい発見でもありました。これからも福島県立友の会は、美術館を深く楽しむための活動をしていきたいと考えています。

美術館を楽しむための、友の会に参加しませんか？ あなたが美術へもっと近づけるように、ご入会をお待ちしております。 ※年会費　大人1,500円
お問い合わせ　福島県立美術館友の会事務局　TEL 024-531-5511　http://www.f-art.jp/

福島県立美術館
企画展 コレクション展 Ⅳ
［会期］2014年3月23日（日）まで
［会場］福島県立美術館　福島県福島市森合西養山1
福島県立美術館所蔵のコロー、ルノワール、モネ、ゴーヤンの作品等も展示
（展示内容が変更になる場合もございます）

サリュ・ラ・フランス 読者プレゼント

彫刻家　カミーユクローデル顔入りＴシャツ＆ノベルティセット（５名様）

● 読者プレゼント応募方法
お名前、年齢、ご住所、電話番号、メールアドレス、ご希望の商品を明記の上
＊メール　france-club@cia.co.jp
＊ハガキ　〒108-0074 東京都港区高輪 2-1-13-205
キャトルヴァンアン コーポレーション内　サリュ・ラ・フランス読者プレゼント係
へご応募ください。尚商品の発送をもって発表と変えさせていただきます。（2014 年３月 30 日締め切り）

●編集後記　やっぱりサリュ作りは楽しいねー。編集部一同 2014 年盛り上がってます。

バックナンバーは仏蘭西倶楽部 HP にてご覧いただけます。http://salutlafrance.jp/

Salut La France
■2014年1月発行第36号
発行　仏蘭西倶楽部
（キャトルヴァンアンコーポレーション内）
配布先／日本全国のフランス関係機関他
FAX 03-5488-7783
E-mail france-club@cia.co.jp
HP http://www.france-club.jp/
発行人：Yuko YOKOYAMA
編集人：Sachiko KAIYAMA
デザイン：Mari KURIHARA
Cozue WATANABE
Photo：Yolliko Saito
印　刷：CIA Corporation

©仏蘭西倶楽部
本誌掲載の記事、写真の無断転載を禁じます。

Girls Tea Party

［会　期］2014 年 2 月 19 日（水）～ 3 月 4 日（火）
2/25（火）定休日

［会　場］日本橋三越本店　本館5階
スペース＃5・リビングステージ
東京都中央区日本橋室町 1-4-1

いくつになってもおしゃべりしたり、集まったり、お茶したりが大好きな”チャーミングな女子”にむけ日本の歳時記の桃の節句に合わせて、ティパーティのときに楽しむアイテムを揃えました。フランスのカンペールのティセットをはじめ、集めて楽しいリモージュボックスマカロン型のかわいいスツール、パーティのテーブルに置く素敵なアートフラワーなどご紹介いたします。

Salut la France à 仙台

プチフランスフェア

フランスを体感する5日間

美味しく楽しくフランスでドキドキしましょう！

フランスフェア・プティマルシェ＆カルチャーサロン＆プチカフェ

仏蘭西倶楽部セレクションのプチマルシェ。
カルチャーサロンでは連日様々な
プログラムをご用意いたしております。

2014.3.6 木 ～10 月

［会　場］ファシュタ（Forsta）
仙台市青葉区大町 1 丁目 4-10 ココエステート大町ビル 1 階
［アクセス］仙台駅から徒歩 15 分　地下鉄広瀬通駅から徒歩 5 分

［OPEN］11:00～20:00

お問合せ
仏蘭西倶楽部　TEL：070-6953-2266　Mail：info@salut-paris.com
詳細は仏蘭西倶楽部 HP を御覧ください。［仏蘭西倶楽部 HP］http://salutlafrance.jp/